

12 月 医療安全管理者交流会

12 月の交流会では

パラマウントベッドさんの協力をいただき研修会を開催しました。

講師として

RoomT2(転倒転落研究会)代表/パラマウントベッド(株)顧問

医療安全全国共同行動企画委員 杉山良子先生をお迎えし、転倒転落問題解決へのプロセスを歩み続けて行くために「他職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小」というテーマでの講演をいただきました。



神奈川県看護協会
医療安全推進者ネットワーク交流会

〈テーマ〉
転倒転落問題解決へのプロセスを歩み続けて行くために
「多職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小」

RoomT2（転倒転落研究会）代表／パラマウントベッド（株）顧問
医療安全全国共同行動企画委員
元武蔵野赤十字病院 医療安全管理者 杉山良子（看護師）

また、

RoomT2(転倒転落研究会)副代表 パラマウントヘルスケア(株)総合研究所

転倒予防指導士 奥 俊介先生に

転倒転落に対する「物的対策」の考え方についても講義をいただきました。

PARAMOUNT BED
転倒転落に対する「物的対策」の考え方

2025.12.8
神奈川県看護協会
医療安全推進者ネットワーク交流会

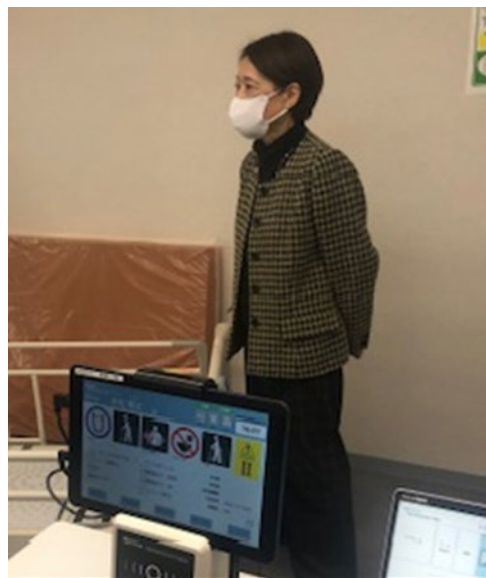
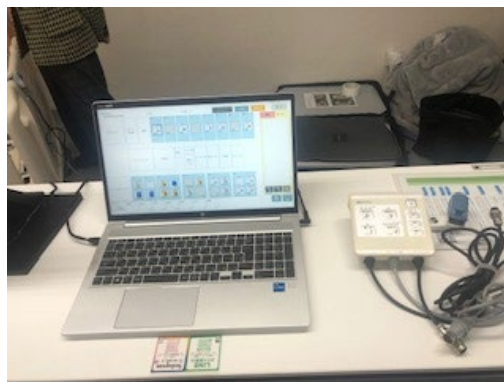
奥 俊介
RoomT2（転倒転落研究会）副代表
パラマウントヘルスケア総合研究所
転倒予防指導士（日本転倒予防学会 認定）

転倒転落は、医療従事者によって引き起こされる場合よりも、患者側によって引き起こされる場合が多いだけに、簡単には解決しない問題であることどのように分析・対策するか、転倒防止活動の方向性の検討等、医療安全管理者の視点でのお話も多く、施設の安全管理に役立てられる学びをいただいたと思います。

転倒転落の対策としてハード面として物的対策やソフト面として運用プロセスや教育などの連携の重要性の講義を受けました。「転んだっていいんです。大怪我をしなければ」というお話を伺い、転倒リスクを増やさない事と、転んでも大怪我をしない環境調整や対策など検討が重要であることも理解できました。

会場には、新しい物的環境の紹介として、低床ベットやマット、眠りスキャンなどを用意して、導入していない施設は製品を確認したり、既に活用している施設は、使用上の困りごとを相談する時間を設けることもできました。

限られた時間でしたが、センサーの設定について日常疑問に感じることを、直接パラマウントさんに確認する時間も持てました。



患者さん、利用者さんの体動をキャッチし、ナースコールやベッドサイド端末、ステーション内で把握できるようなシステム化が進むことを期待しますが、それには費用を要します。しかし、限られた人材で安全に看護をするためには、DX化を考慮した療養環境の整備が必要です。

補助金制度のご紹介もありましたが、各施設で、計画的、継続的に療養環境を整備することが必要です。そのためには、必要性を組織に問いかけること、院内他部門と協力し予算を獲得していくことも重要であると感じました。